

(1) 臨床宗教師とは

○臨床宗教師とは、欧米におけるチャプレンに対応する日本語として考案された言葉です。日本における臨床宗教師の特色は、心に傷を負った方々に心のケアを、被災地や医療機関、福祉施設などの公共空間で施すことを目的としていることです。心のケア活動に当たっては、宗教宗派を超えて行い、また布教や伝導活動とも切り離している点に特色があります。

臨床宗教師は、「なぜこのような目にあうのか」「生きる意味はどこにあるのか」などと苦悩する人々に寄り添って、かけがえのない一人ひとりの人生の物語をあるがままに受け止め、ケア対象者の宗教性を尊重する「スピリチュアルケア（こころのケア）」「宗教的ケア」を行うことを使命にしています。自分に価値を置けなくなった人、生きることに意味を見いだせなくなった人、生きることに虚しさや孤独を感じている人の苦悩や悲嘆に、宗教者としての経験を生かして向き合うことで、苦悩を和らげ、軽くするケアに取り組みます。

○宗教者がこのような新しい活動に取り組もうというきっかけになったのが、2011年3月11日に発生した東日本大震災です。宗教者として、心に傷を負われた方々のケアに貢献したいという強い思いからでした。医師、看護師、臨床心理士らによる心のケアと共に、被災地支援活動をさまざまに展開しました。そこで悲しみに寄り添う宗教者の社会的実践は被災者にとって生きる希望となりました。また、反対に宗教者自身が被災者の優しさに支えられ、生きる意味を学ぶ機会にもなりました。

東日本大震災における宗教者としての活動を通じて、2011年に宗教者や宗教学者による宗教者災害支援連絡会が設立され、2012年から東北大学大学院文学研究科実践宗教学寄附講座において、臨床宗教師養成に関わる理論教育と臨床実習を組み合わせた臨床宗教師研修が始まり、その後、龍谷大学等の研究機関もこれに取り組んでいます。既に、修了者は150人を超え、臨床宗教師は全国各地で活動に当たっています。